

「子どもの心への響き」を心がける毎日に、 活水での学びが活きています。



学校法人 西諫早学園
西諫早幼稚園勤務

た な か あ ん り
田中 杏里さん

平成25年3月
健康生活学部子ども学科卒業

(長崎県／活水高等学校出身)



日に日に大きく成長する子どもたちを 見守る幸せな毎日。

現在私は、3歳児クラスの副担任をしており、29人の個性豊かな可愛い子どもたちと毎日楽しく過ごしています。4月当初は、入園したばかりの子どもたちと同様、私自身も初めて保育現場で働くことへの不安や、慌ただしく過ぎていく毎日に戸惑うこともありました。しかし、様々な体験を通して大きな成長を遂げていく子どもたちの姿を見ていると、心から幼稚園の先生として働くことができ幸せだなと感じる毎日を送っています。

様々なことに気づかせてもらえた 活水女子大学での4年間。

「幼稚園の先生になりたい」という小さい頃からの夢を叶えるため、活水女子大学健康生活学部子ども学科に入学しました。子ども学科の授業では、実践や体験を通して学ぶ機会が多く、実習以外にも、保育現場に触れる機会や、子どもたちと接する機会がたくさんあります。

ここで子ども学科の授業を少し紹介いたします。



入学当初、ダンボールを利用して遊園地を作るといった授業がありました。まだ保育の知識がなかったのですが、子どもたちから見た遊びとは何だろうかと考え、友だちと試行錯誤しながら作り上げました。実際に子どもたちがこの遊園地で遊んでいる姿を見ると、私たちが思いもよらなかった遊びを展開し、子どもたちの想像力の豊かさに驚いたことを今でも覚えています。また遊びの環境を保育者が作るに当たっては、その遊びがさらに違う遊びへと展開出来る環境であることが大切だと気付きました。ダンボール一つでも遊ぶことはできるんだということが、とても勉強になりました。

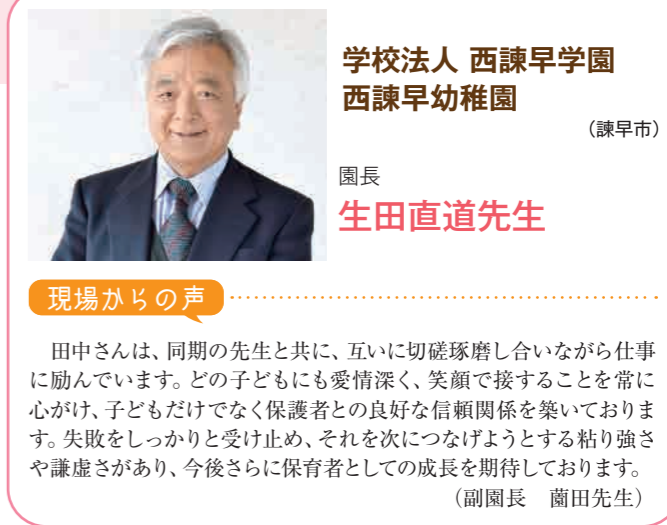
また保育現場で求められる表現力を身につけるためにミュージカルも行いました。子どもたちの前で演技することで、表現する楽しさ、子どもたちが目を輝かせながら観てくれる喜びを感じることができ、また人前に立つという経験を積むことで、何かを行う時も自信を持って取り組むことができるようになりました。このように活水の授業は、受身的に学ぶのではなく、経験する機会を与えられ、その中で保育において必要な知識を得ることができ、

授業の中で「感性」を磨くことが出来るのは、子ども学科の魅力だと思います。先生方から、保育現場における

子どものことばや世界観を聞くこと、時には学外に出て近くの公園等で5感（視覚・聴覚・触覚・嗅覚・味覚）を使って遊ぶ体験から、自分が感じ取ったものを表現するなど、楽しみながら自然に感性が豊かになったと思います。

先生方の親身なご指導のおかげで、 採用試験にも自信を持って臨めました。

幼稚園や保育園の採用試験は一般企業の採用試験と大きく異なります。一般企業ではエントリーシートから始まり試験や面接を経て合格という道になるとと思います。私が受けた園の採用試験はピアノ、模擬保育（手遊び、絵本の読み聞かせ、芋掘りの説明）、小論文や面接等でした。模擬保育では活水での授業で身につけたことを活かし、そして何より子どもたちが楽しい気持ちで私の保育に参加できるような内容になるよう心がけました。採用試験を受けるに当たっては、実技試験（ピアノ、絵本の読み聞かせ）、面接の対策を行っていきました。就職課の方々を始め、学科の先生方には的確なアドバイスと後押しをしてもらい、自信をもって試験当日を迎えることができました。子ども学科は少人数での授業が多いため、学生と先生方の距離が近く、何でも相談できる環境にあると思います。就職活動となると初めてのことばかりで不安なことが多くありますが、悩んだ時は気軽に相談できるのが心強いです。



学校法人 西諫早学園
西諫早幼稚園

(諫早市)

園長
生田直道先生

現場からの声

田中さんは、同期の先生と共に、互いに切磋琢磨し合いながら仕事に励んでいます。どの子どもにも愛情深く、笑顔で接することを常に心がけ、子どもだけでなく保護者との良好な信頼関係を築いております。失敗をしっかりと受け止め、それを次につなげようとする粘り強さや謙虚さがあり、今後さらに保育者としての成長を期待しております。
(副園長 藪田先生)

子どもたちの反応があってこそその保育。 良いところをたくさん伸ばしてあげたい。

「幼稚園の先生」という夢を実現させた今、保育を行う中で、保育者だけで一方的に進めていくのではなく、子どもたちの反応があるからこそ楽しい保育は成り立つことを学びました。また日々の保育の中で子どもたちに向けた声かけが子どもたちの心に響いたのか振り返り、子どもたちに学びながら一緒に成長していきたいと思っています。そして何より、子どもたちがもっている素敵な部分をたくさん見つけ褒め、良いところを伸ばしていけるようこれからも努力していきたいと思っています。

